令和２年１２月１０日発行（毎月１回発行）　第７８３号

長崎の林業

小曽根星堂書

楠本さんお手製の竹細工　（東彼杵郡波佐見町）

12

目　次

●林政だより　新たな森林管理システムの1年目の取組状況 …… 2
長崎トヨペット株式会社・ネッツトヨタ長崎株式会社
令和2年度農林業大賞特別賞を受賞 …… 3
●林業普及だより　祝　農林業大賞受賞
雲仙百年の森づくりの会　代表　宮本秀利さん …… 4
●特集記事　自然界のバイオリズムに合わせ最高の材を得る竹細工職人
波佐見町「楠本竹工房」 …… 5～6
●地方だより・県央　木育キャンプが開催されました！ …… 7
●地方だより・対馬　わたしたちのどんぐり苗を守れ！ …… 8
●林業団体情報　「ふるさとの森フェスタ with九電プレイフォレスト
inながさき県民の森」を開催しました！！ …… 9
●センターだより　ドローンを使って作成したオルソ画像とその精度について …… 10
●紹介コーナー　木工雑貨工房　平治 …… 11
●長崎の山：鳥甲山822.2m（雲仙市） …… 12

２０２０
No.783

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

新たな森林管理システムの1年目の取組状況

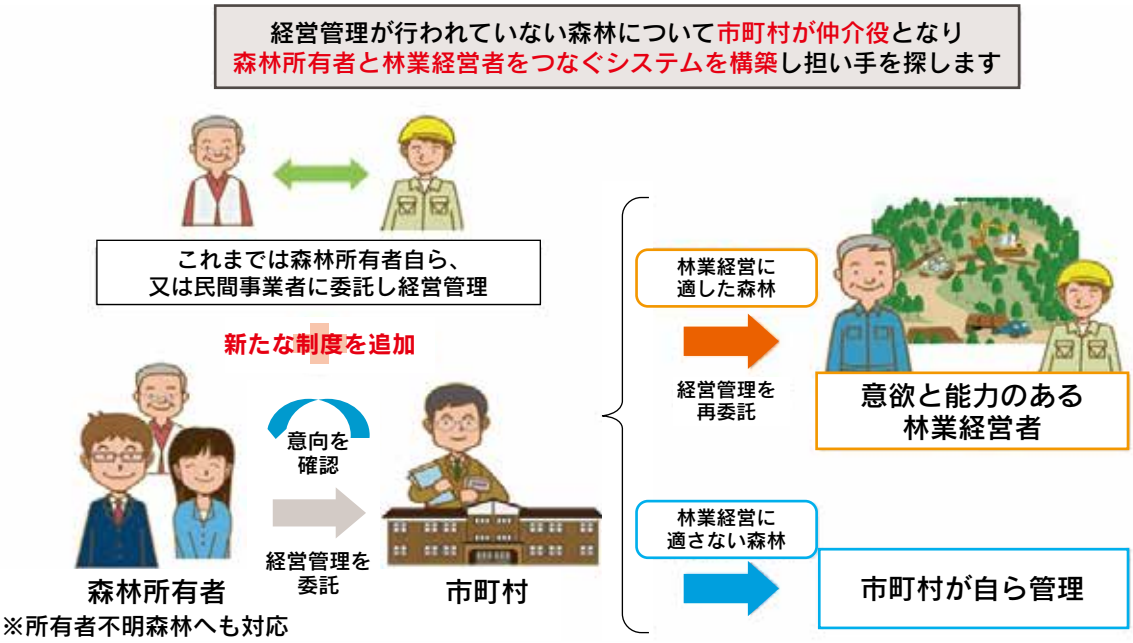

図１　新たな森林管理システムの仕組み

新たな森林管理システムの意向調査とは・・・

本システムは、経営管理されていないスギやヒノキの人工林を対象に森林所有者の今後の経営管理の意向について確認させていただきます（図 1）。詳細は令和元年 12 月号を参照いただきますようお願いします。

県全体の取り組み状況

令和元年度に、11 市町において意向調査が実施され、206 名から回答いただきました。そのうち市町へ経営管理を委託することを希望された方は 153 名いらっしゃいました（図 2 参照）。

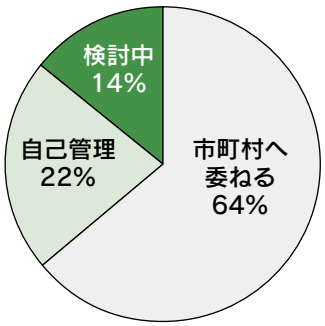

図 2　意向調査の回答内容

地域林政アドバイザーによる取組事例（西海市）

西海市は、森林整備を計画的かつ着実に進めていく方針で地域林政アドバイザーが主体となり比較的所有規模の大きい、経営に適さない森林をターゲットに地元説明会等に取り組んでいます。令和元年度に、全国で集積計画を公告した 23 の市町村のひとつ（九州では唯一）として先進的な取り組みとして紹介されています。令和 2 年度は集積計画に基づき森林整備を実施する予定です。

図3　地元説明会の様子

今後の取組

今後、市町を中心に経営管理されていない人工林の意向の確認を進めていきます。森林所有者の皆様からの申出も可能な場合がありますので、最寄の市役所・町役場へご相談ください。

（林政課　森林管理班）

林政だより

長崎トヨペット株式会社・ネッツトヨタ長崎株式会社 令和２年度農林業大賞特別賞を受賞

ながさき農林業大賞の授賞式（11月14日）

長崎トヨペット株式会社およびネッツトヨタ長崎株式会社は、「企業の森」の活動を通じて、継続的に森林保全活動に取り組んできたことが評価され、令和2年度ながさき農林業大賞の特別賞を受賞されました。そこで、森林保全活動のトップランナーとして両社が実施してきた取組を紹介します。

両社は、自動車を販売する者の責務として長崎県の森林環境の保全に積極的に関わり、人と森林の関係を厚く取り結ぶお手伝いをしたいとの思いから、平成20年に「長崎県森林保全ＰＮ（パートナー）活動」を開始されました。この活動は、地域の森林に関係する方々と協力して森林の保全・育成活動を行うものです。

ハイブリッドの森

この活動のフィールドとして平成21年度には、旧琴海町長浦地区に県内初の企業の森「トヨペット・ネッツハイブリッドの森」が誕生し、その後、5年ごとに森林整備の区域を拡大され、現在両社が管理する森林面積は、44ヘクタールに及んでいます。

植樹祭の実施状況

さらに今年度、県内の企業の森として初めて「伐って・使って、植えて、育てる」森林の循環利用に挑戦されます。まずは長崎市戸根地区の県営林で、環境に配慮するため、森林の半分を残して伐採し、その後、一般の方や社員と一緒に木を植え、育てていく計画であり、SDGs達成に向けた模範的な取組といえます。

また、両社は、各自治体に苗木の寄贈や植樹祭の開催のほか、登山道の整備や林間学校の開催など、環境教育の場を県民の皆様に提供するとともに、地域の製材所と連携して、県産材の木製遊具の作成や※1「木の駅たかき」の活動に※2トラックスケールを寄贈するなど、地域の活動にも積極的に支援されています。

登山道の案内看板設置

今後も、両社の様々な活動・支援が、県民の皆様の森林を守り育てる意識の向上と環境保全の機運の醸成につながっていくものと考えています。

※1：間伐後山林に残っている未利用材を集め、地域通貨で買い取る諫早市高来町のプロジェクト。
※2：車輌に積載された積荷の重量をトラックに積載したまま計測できる大型の計量器。

（林政課　計画調整班）

林業普及だより

祝　農林業大賞受賞

雲仙百年の森づくりの会　代表　宮本秀利（みやもとひでとし）さん

令和２年度「ながさき農林業大賞」農山村地域保全部門において、島原市の「雲仙百年の森づくりの会」が長崎県知事賞を受賞されました。雲仙百年の森づくりの会は、平成２年に噴火した雲仙普賢岳の火砕流により失われた森林の回復を目指し、ボランティアによる植樹活動を行っています。これまで、島原半島内10校の高校生による卒業記念植樹「卒業の森」などにより、３万本以上の広葉樹が植栽されてきました。

代表の宮本秀利さんは、雲仙市で造園業を営んでおられます。小さいころからおばあちゃんが水などの自然の恵みに感謝し、毎日普賢岳に向かって合掌しているのを見て、「森は目に見えないところで役に立っている。」ということを実感して育ってきたそうです。普賢岳の噴火が起きた時も、「木々が焼けて大切な森の機能が失われてしまった。噴火が収まっても、消滅した森が元通りにならないと本当の復興とは言えない。」と思い、立ち入り制限が解除された平成９年から、被災した島原市千本木地区での植樹活動を開始されました。

高校生を対象に植樹活動を始めるキッカケは、「島原半島で育ってきた子供たちに、植樹活動に携わることで、水を供給する源である普賢岳のおかげで農作物が育ち、豊かな環境が築かれていることを知ってもらいたい。そして、高校生３年生という旅立ちの年に地元に植樹をすることで、島原半島を離れたとしても、根っこはふるさとにあるということを思い出してほしい。」と考えたからです。実際に、植樹活動をした高校生が卒業して島原半島を離れたのち、現地を見に来たことがあり、離れても自分が植えた木や生まれ育った故郷を大切に思っていてくれることを実感したそうです。

宮本さんは、一般には未だ、森の存在が重要であるということが浸透しきっていないように感じ、もっと森の重要性に目をむけてほしいと考えられています。今後も活動の中から、一人でも多くの人が森の大切さを理解していくことを期待します。

表彰式にて知事と：宮本秀利さん

植樹活動の様子

現在の植栽地の様子（H25植栽）

（島原振興局　林務課）

【特集記事】

自然界のバイオリズムに合わせ最高の材を得る竹細工職人

波佐見町「楠本竹工房」

楠本竹工房　楠本幸一（くすもとこういち）さんと奥様のキヨノさんご夫妻

異業種間で連携するまちづくり

東彼杵郡波佐見町は、新しいチャレンジと「古き良きモノ・コト」が融合した自然豊かな魅力あふれる街です。町全体で取り組んでいる「陶・農・人がつながる」観光振興計画により、平成29年度には年間の観光客が100万人を突破しました。歴史ある窯業、農林業と観光業が連携し、滞在型の体験プログラムを打ち出した結果、再度訪れたくなるまちづくりが実現しています。

今回はそんな波佐見町ならではの味のある竹細工工房を開かれている楠本幸一さんに話を伺いました。

自慢の手作り竹工房

楠本さんの竹細工作りは、自宅の敷地内に建てられた手作りの工房で行われます。入口に掲げられたひときわ目を引く看板も楠本さんのお手製のもの。工房本体も、主な骨組だけは大工さんに依頼したものの、それ以外は全て楠本さんの手作りだそうです。小窓からは沢山の竹細工達が顔をのぞかせ、外から見ても自然と募るワクワク感。中に入ると大小さまざまな作品たちが出迎えてくれます。自慢の工房を飾る大きな梁は、波佐見町の中尾山の入り口辺りで見つけた孟宗竹で作られています。楠本さんの想いが詰まった自慢の竹工房は、約1年をかけ平成13年に完成しました。

（左）温かな陽差しが差し込む工房
（右）孟宗竹で作った大きな飾り梁

焼き物の生地問屋から竹細工職人へ

御歳82歳の楠本さんは元々30年程続く波佐見焼の生地を作る問屋さんでした。当時、自宅周辺には何軒もの生地屋さんが軒を構え、人気の波佐見焼を支えていました。その焼き物の生地を作る傍ら、遊びがてら竹でトンボを作ってみたのが竹細工の始まりでした。約20年前のことです。放置され生い茂った竹林から伐ってきては材料にし、独学で色々な作品を作っていきました。当初はカニやカマキリ、クワガタなどの小さな

生き物を作っていましたが、そのうち竹の根本を掘って根っこから伐ってくるようになり、その根の部分を使って大きな作品を手掛けるようになります。

（左）所狭しと並ぶ小さな作品たち
（右）竹の根っこで作られたカメの親子

伝統の技を活かして

楠本さんの作る大きな作品のひとつに花器があります。大きさや形状もさることながら目を見張るのが、その一つ一つに丁寧に施された絵柄です。竹に直接書いてあるのかと思いきや、実は良く見ると竹に線彫りで絵柄を彫り込み、そこに色を入れていくという手法が取り入れられています。立体的に浮き上がって見える絵柄は何とも風流で、日本の風景や生命の美しさに溢れています。この作品が生まれたのは、波佐見焼の街ならではと言えます。独学で作品を作っていた楠本さんでしたが、図鑑などを見て描くよりももっと繊細で生き生きとした絵を描きたいと思い、すぐに波佐見焼専門のデザイナーさんを訪ねました。そしてその絵付けの手法や構図を教わったのです。人と同じような柄を真似して描いても良さは伝わらないという教えを受け、独自の柄を描いていきました。

（左）竹の根っこで作られた花器の数々
（中央・右）線彫りで彫り絵付けされた作品

高島暦から読む「竹のバイオリズム」

皆さんは「高島暦」という暦はご存知でしょうか。毎年年末に新聞屋さんが届けてくれるというご家庭もあるのではないでしょうか。恐らく誰もが一度は目にしたことのある「高島暦」は中国の「易経（えききょう）」を基に作られており、吉凶をみる方位や大安仏滅などの六曜、運勢などを見るのに用いられています。より良い作品作りを模索してきた楠本さんが「竹の伐り時」を見極める際に用いるのがこの高島暦。この暦を使って毎年独自の「つち表」を作り、年間を通し良い竹を伐る日を決めています。

（左）楠本さんが参考にする高島暦
（右）高島暦から作った今年の「つち表」

「昔の宮大工さんの間では、生き物である樹木にも人間と同じようなバイオリズムがあり、活発に活動する時期と鎮静化する時期がある。抵抗力が落ちる時期に伐採すると虫が入ったり腐りやすくなると伝えられていたんだよ。」と話す楠本さん。実際に良い時期に伐った竹の支柱を畑に使うと何年も持つそうですが、悪い時期に伐った竹だと1～2年で駄目になってしまうそうです。伐り時を知らないと良い作品は作れないと県外の業者などにも問い合わせ勉強しました。お手製の「つち表」を手に、良い竹があると知らせが入ると時期をみて町外にも出向いて伐採し、その材で何を作ろうかと想像を膨らませる楠本さん。「この作品はあの場所から持ってきた竹で作ったよ。」と嬉しそうに話す楠本さんの表情と、隣でにこやかに話を聞く奥様の穏やかな笑顔が印象的な竹工房でした。

（NPO法人地域循環研究所）

地方だより

木育キャンプが開催されました！

森林散策

間伐体験

10月31日(土)に国立諫早青少年自然の家が主催する教育事業「木育キャンプ」が開催されました。小学4年生から中学1年生までの児童16名(長崎市・諫早市など)が参加しました。今年の木育キャンプは「木に触れ、木から創り、木を理解しよう」をテーマに、森林散策や間伐体験を行い、地元製材所にて、丸太が木材になる過程を見学するなど、私たちの暮らしに欠かせない木や森林の大切さについて、幅広く学ぶ機会になりました。

森林散策

子供たちは、諫早青少年自然の家近くにある、「いこいの散策路」で森林を散策しました。散策の途中で、スタッフから樹木や森について説明があり、子供たちはみんな真剣に耳を傾け、「知らなかった」「勉強になった」などの感想を話してくれました。また、県央振興局林業課の職員が、紙芝居を使って森林の働きについて説明を行い、森林を守ることの大切さについて学びました。

ほかにも、子供たちは木の実や葉っぱ、種、木の枝を観察し、樹種による色や形、手触りの違いを実感していました。

間伐体験

森林散策後は、「木こり体験」として間伐作業を体験しました。子供たちは、胸高直径14㎝、樹高13mのヒノキを、ノコギリを使い参加者全員で協力して伐倒しました。伐倒後は皮を剥いで、ヒノキの香りを嗅いだり、輪切りにして年輪を数えたりと、普段触れる機会の少ない木材をじっくりと観察しました。

活動を通して

今回の木育キャンプは、様々な体験を通して、子供たちが木や森について理解を深める貴重な機会になったと思います。今後も、自然との触れ合いを通して、子供の豊かな感性を育む活動を支援していきたいと考えています。

参加者の皆さん

（県央振興局　林業課）

地方だより

わたしたちのどんぐり苗を守れ！

どんぐりから苗木に！

10月10日（土）に対馬市厳原町金田（かんだ）緑の少年団が、金田小学校のグラウンド内にどんぐりから芽を出した苗木を植樹しました。

どんぐり苗は、昨年度の活動でどんぐりを拾い、子どもたちが植え育てたものです。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動が延期となったり、台風でどんぐり苗の葉が落ちてしまったりと植栽するまでに様々な苦労がありました。

どんぐり苗の植栽

シカ被害

対馬市では、人口より多くのニホンジカが生息しており、様々な森林被害が確認されています。木の樹皮を剥ぐ被害、下草や切り株から出る新しい芽や植えた苗木を食べる被害など森林のはたらきに悪影響を与え、産業や生活を脅かすほど深刻な問題となっています。

わたしたちのどんぐり苗を守るために

今回の活動では、対馬振興局林業課からシカによる森林の被害について説明した後、子どもたちが植栽したどんぐり苗をシカから守るため、ワイヤメッシュとアニマルネットで防護柵を設置しました。

まず、植栽地の周りに大人が鉄筋を打ち込み、子どもたちがワイヤメッシュとアニマルネットを結束バンドなどで固定しました。最後に子どもたちがワイヤメッシュや金具等で怪我をしないように加工して、立派な防護柵が完成しました。子どもたちには、自分たちで植えたどんぐり苗を大事に育ててほしいです。

防護柵の作成

最後に

対馬ではよく見かける防護柵ですが、その役割について子どもたちに知ってもらう良い機会になったと思います。今回植栽したどんぐり苗は、将来しいたけ原木として利用される予定とのことなので、その時がくるまで、シカ・イノシシから守り継いでほしいと願っています。

防護柵完成！

（対馬振興局　林業課）

林業団体情報

「ふるさとの森フェスタ with 九電プレイフォレスト inながさき県民の森」を開催しました！！

令和２年10月25日（日）、長崎の林業９月号の林業団体情報にてお知らせしました「ふるさとの森フェスタ with 九電プレイフォレストinながさき県民の森」を開催しました。また、イベントに合わせて秋の緑の募金も行われました。今回、新型コロナウイルス感染予防のため、県民の森を広域的に利用したウォークラリーを３コース（遊ぶ・学ぶ・散策）に分けて実施し、合計194名が参加されました。

森林「遊ぶ」コースは、森林の中で歩きながら体験等を通して森林の楽しさや木材や竹材からできるものを知ってもらうことが目的です。小学校低～中学年とその家族を対象とし、アスレチック広場からみはらし山展望台、みどりの池、シャクナゲ橋等、森林館までの約２kmのウォーキングの他クイズラリーや体験（竹細工やマイ箸、ミニカー、松ぼっくりツリー作り）が行われました。

（左）やじろべえ作り　（右）マイ箸作り

森林「学ぶ」コースは、森林の中を歩きながら人工林やながさき森林環境税について等のクイズや木こり体験等を通じて森林について学び、ネイチャーゲーム等でより森林に親しみを感じることが目的です。小学校中～高学年とその家族を対象とし、Ｐ５駐車場近くの芝生広場から森のつり橋、オシドリ淵等、芝生広場までの約3kmウォーキングの他、クイズラリー、体験（木こり体験、えんぴつ作り、ネイチャーゲーム）が行われました。

（左）木こり体験　（右）クイズラリー

森林「散策」コースは、森林の中を歩きながら、県民の森の秋の景色や自然との触れ合いを感じ・楽しむことが目的です。森林のつどい参加者を対象とし、Ｐ７駐車場から炭焼窯や森のつり橋、オシドリ淵、紅葉の路、森林館、わらびの路、天文台、Ｐ７駐車場までの約５kmのウォーキングが行われました。

今回のイベントでは、「初めての家族での参加でしたが、またみんなで来たいねと話しながら歩きました。」や「森林浴ができて、大変リフレッシュができました。子供も工作ができて大満足です。」、「各ポイントで担当の方が見守ってくれたので安心して参加できました。」等の感想があり、多くの参加者がイベントを楽しめたようです。初めての試みとなる森林ウォークラリーでしたが、イベントを通じて、森林を守り育てていくことの大切さや森林ボランティア活動の推進、ながさき森林環境税の周知、森林・林業、県産材利用への理解を深めるきっかけになったのではないかと感じます。

（長崎県森林ボランティア支援センター）

センターだより

ドローンを使って作成したオルソ画像とその精度について

はじめに

近年、様々な分野でドローンの活用が進んでいます。林業分野においても、令和2年度より間伐や苗木の植栽、下刈り、防鹿ネット等の森林整備について、ドローンで撮影した画像により補助金申請を行えるようになりました。この方法で申請することで、現地での※コンパス測量やGPS測量を行う必要が無くなります。今回は新しい申請方法の肝であるオルソ画像について説明します。

※コンパス測量・・・ポケットコンパスと巻き尺（または小型レーザー距離計）を用いて2点間の方位や高低角、斜距離を読み取る測量方法。

オルソ画像とは？

オルソ画像とは、複数の空撮画像を1枚につなげたものです。つなげる際に歪みを取り除くことで、真上から見た状態の画像となります。図１の左の写真では斜めに写っていた樹木が、右の写真では直立していることがわかります。このように処理されることで、画像から距離や面積の情報を正しく取得できるようになります。

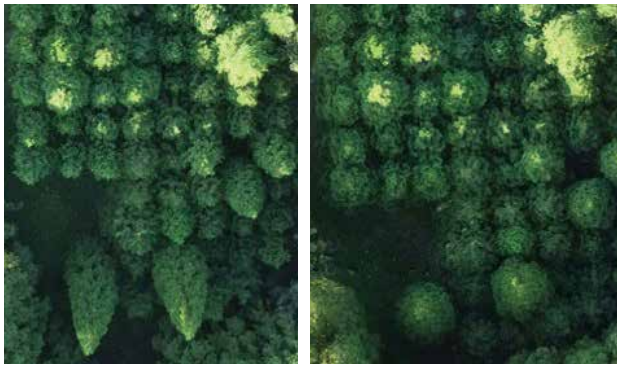

図1　1枚の空撮画像（左）とオルソ画像（右）の比較

距離や面積の差について

オルソ画像から測定した距離や面積の精度について、疑問に思われる方も多いと思います。そこで、次のことを行いました。

まず、5ｍのスタッフ（長い定規のような計測器具）2本を平地に配置し、オルソ画像上で計測して比較しました。その結果、2本とも4.97mと3cmの差でした。

図2　オルソ画像上の計測画面

次に、面積の求積差を調べるため、従来のコンパス測量による実測値と、オルソ画像による計測値を5つの植栽地で比較しました。結果は表１のとおりです

表1　コンパス測量実測値とオルソ画像計測値の差

No.	実測値(ha)	計測値(ha)	差(%)
植栽地１	1.14	1.09	4.4
植栽地２	1.07	1.02	4.7
植栽地３	0.35	0.36	2.9
植栽地４	1.39	1.39	0.0
植栽地５	4.96	5.03	1.4

どの現場でも5％未満と、大きな差は見られませんでした。

以上のことから、オルソ画像上の距離や面積は問題なく計算されていると考えられます。

終わりに

今回はオルソ画像とその精度について説明させていただきました。次回は「どのくらいの高度で飛ばせばいいのか」など、ドローンの飛行条件について詳しく触れていこうと思います。

（農林技術開発センター）

紹介コーナー　木工雑貨工房　平治（へいじ）

南島原市深江町に「ココロを平和に治められるように」という想いの詰まった「木工雑貨工房平治」があります。見ているだけでほっこりと心が暖かくなる小さな雑貨を手掛ける作家の平坂栄治さんは御歳70歳、元々は大工兼板金屋さんです。15歳で入った大工の道で、日々木材と触れ合ううちに自前の小刀で色々な小物を作り始め、独学でモノ作りを続けてきました。材料となる木はセンダンやヒノキ、ケヤキ、スギなど。近くの友人知人らから「いい木があるよ。」と声がかかると自ら伐採し加工しています。そのため作品に使用する木材は全て島原産100%です。また時には譲り受けた解体家屋の廃材に雨風を当て、敢えてダメージを与えた材にします。平坂さんの手にかかると廃棄されるだけの木までもが何とも味わいのある作品に生まれ変わり、新しい持ち主の元へと渡っていきます。身の回りのもので作るというこだわりも、自らのアイディアと直感で作る楽しさを大切にしているため。風に揺れるオーナメントの一部には趣味の釣り道具が使われていました。作り手も使う側も楽しくなる雑貨たち。遊び心溢れる温かい作品を一度手に取ってみませんか。

木工雑貨工房　平治

長崎県南島原市深江町丙1965-8
TEL：090-1081-1139

作品に出会える場所（写真はzakkaみち草）

zakkaみち草（諫早市森山町唐比北67-4風の森内）

Quercus（クエルクス）（南島原市深江町丁4621-1風びより内）

ku-ji（クージ）（雲仙市国見町神代戊2576-1）

伊万里木材市況

【ヒノキ】　令和２年11月現在

長さ	径級　cm	等級	高値（円／㎥）	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	19,200	普通	多い	普通
	16～18	小曲り	18,100	普通	多い	普通
	20～22	直	18,800	普通	多い	普通
	20～22	小曲り	17,400	普通	多い	普通

【スギ】　令和２年11月現在

長さ	径級　cm	等級	高値（円／㎥）	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	13,300	多い	多い	多い
	16～22	小曲り	12,000	多い	多い	多い
	24～28	直	13,300	多い	多い	多い
	24～28	小曲り	12,000	多い	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場　電話 0955-20-2183 まで

長崎の山：鳥甲山（とりかぶとやま）822.2m（雲仙市）

「奥雲仙牧場の森」からみた鳥甲山

雲仙市千々石町田代原は標高600mにある草原で、九千部（くせんぶ）岳、吾妻岳、鳥甲山の三山に囲まれています。中心の谷間では少なくとも江戸時代から放牧が行われており、春はミヤマキリシマ、夏はヤマボウシ、秋は紅葉、冬は霧氷等四季折々の自然が楽しめる、別名「奥雲仙」と呼ばれている場所です。

今回はその三山の１つ、鳥甲山を紹介します。鳥甲山は、千々石断層（千々石町付近にある正断層で総延長は約14㎞）の北側にある山で、麓には「遊々の森」の奥雲仙牧場の森があります。森林内には無線電波塔や巨石の下に赤岩観世音が祀られてあります。登山口から登っていくと、ヒノキ林が広葉樹林に変化し、山頂付近になるとヤマボウシやアカマツ等が多くみられます。三等三角点（平石）のある山頂から先に進むと岩場があり、そこから九千部岳、吾妻岳の他に田代原を一望することができます。

鳥甲山にある赤岩観世音は、古くから地域住民の信仰を集めていました。大宝元年、行基菩薩という僧が雲仙に温泉山満明寺を開山された時、僧は田代原にも寺や僧坊を建てたいと願いを込めて九千部岳で苦行をしており、赤岩観世音は、その僧の願いを助けてやろうとしたという伝説があります。そのため、赤岩観世音にお参りをするとご利益があるとのことで地域住民だけでなく、島原や有明等たくさんの人が赤岩神社を訪れたそうです。大正９年に赤岩観世音は鳥兎神社の境内に移され、鳥甲山内の赤岩観世音も新しく作り変えられましたが、鳥甲山の入口には今でも奉納された大鳥居が残っており、当時の信仰の深さを感じることができます。

麓の田代原には長崎県で初の「遊々の森」があります。「遊々の森」とは様々な体験活動や学習活動を行うフィールドとして国有林を継続的に利用できるようにする制度のことで全国各地に点在してます。長崎では林野庁九州森林管理局長崎森林管理署・島原雲仙農業協同組合・長崎県雲仙市と森林ボランティア団体の奥雲仙の自然を守る会が協定を締結し、「奥雲仙牧場の森」という名称で自然体験や自然学習等を行っています。

田代原は昔から放牧等が盛んに行われミヤマキリシマが多く咲いていましたが、放牧が少なくなってからはアカマツ等の侵入木で森林化が進み、雑草木地となっていました。奥雲仙の自然を守る会は奥雲仙の豊かな自然を守るため、国、県、市、企業、大学等と協力し、ミヤマキリシマの保全活動や森林景観の維持、自然教育等の活動に取り組みました。その結果、現在ではミヤマキリシマやカエデが楽しめる場所に蘇りました。

鳥甲山から見渡した田代原は、自然と向き合い、その自然を未来に残すため森林ボランティア団体を含め、色んな人の手で守ってきた証を感じることができます。

田代原草原と九千部岳と吾妻岳

（ＮＰＯ法人地域循環研究所）

長崎の林業　12月号　第783号
編集・発行　長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町３番１号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp